

一年戦争だけで終わらなかつたんだけど せかんど

消しゴム二等兵

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

一年戦争だけで終わらなかつたんだけどの続きっぽい何かです

目 次

一年戦争だけで終わらなかつたんだけど せかんど

一年戦争だけで終わらなかつたんだけど せかんど

「はあ…やつとこさ腰を落ち着けられると思つたのにな…」

余りにも懐かしい ファット・アンクル 的のローター音に誘われて出てくればジオ  
ンの骨董品が大挙してこちらに向かっているのが見えた、懐かしいと  
いう感想以外はそんなに出てこない。

「館長さん！」

そう言いながらどこかで見たちびつ子が走ってきた。

「なんでそんなところで突つ立てんのさ！早く逃げないと！」

「おうそุดな…だが悪いな先に行つといてくれ」

「はあ？何言つてんだよ！すぐこも戦場になるんだつて！ボケるには若すぎんだろ!?」

「結構辛辣だなオイ…大丈夫だつて俺は伝説の部隊の隊長、ジエイク・  
ハートランドなんだぜ？」

そうとぼけながら話すともう我慢ならないと言わん顔をしながら、  
「クソもう知らねえかんなーばーか！」

と吐き捨てながら走つていった。

「お前本当に口の悪さ直せよ？」

そう言いながら男は展示されているMSのうちの一機に近付いて  
いく。

その機体は一年戦争を共に駆け抜けた愛機、何よりこのトリントン  
戦争記念館の目玉の展示品だ。

そして清掃の時と同じ手順でコクピットに乗り込む。

「よつと…核融合炉起動、基礎動作OS起動…武装チェック…ビーム  
サーベル2本か…動くだけで儲け物か…」

搭載された融合炉が唸りを上げる。

現在の主力機からすれば旧式どころか退役しているクラスの品だ。  
だが、眠らせるにはまだ早いところそりと整備や補給は欠かしてい  
ない。3週間後の記念館創立祭で動かして驚かしてやろうと思つて  
いたのだがまさかこんな出番があるとは、

だがこれも因果かと自分を納得させる、奴らは奴らの復讐を果たし

にきたのだろうから。

だがここに住む無辜の人々を焼かせるわけにはいかない。

何より久しく味わつていなかつたこの高揚を噛みしめずにはいられない。

「お前と同年代がピンピンしてんだ…イケるだろう…!? 相棒！」  
伝説ガンダムが双眸を輝かせて答えた。

「良いぞシャンブロ！ さつすがジオンのMAだ！ 頼もしい事この上ねえなあ！」

そう言いながらケンプファーを駆り接敵したGM IIをサーベルで両断し、ショットガンでサーベルを抜こうとしたネモを牽制する。

彼に取つて長年の宿願であつたジオンの大義のための礎になるという願いが成就した晴れやかな舞台であつた。

いかに1人でも多く連邦の畜生どもを道連れにするかという難題は彼の頭を脳内麻薬漬けにするには十分な体験だつた。

一年戦争の神話に見染められるまでは。

「なにつ！」

先ずは愛機の左足が突如損失した。  
ついで両腕の反応がなくなり。

何が起きたか理解する間も無くケンプファーのパイロットはコクピット狙いのビームサーベルに飲み込まれた。

「カーカス！ 味方が飲まれていつている地帯がある！ 上から片付けろ！」

「了解だ」

そう言いながら暴れまわつてゐる獲物を探す。

どうやらトリンントンにも骨がある奴がいる様だと独りごちながらデータを統合し獲物がいる戦域に銃口を向ける。

「…なに？」

そう口から溢れるのも無理はない。何故ならば第四世代機としてジエガンと同質と言つても過言ではないゼー・ズール2機を相手取つてゐるのは、デモンストレーションカラーリーと言つて良い派手な色をし

た第一世代の陸戦型ガンダムだつたからだ。さらに驚かされる点はガンダムの方が押しているという事実だろうか。

「…エースか！」

そう判断したカーカスはすぐさま狙撃体制に入りコクピットを射抜く隙を伺つた。

じつとりと手が湿り気を帶びてゐるのを誤魔化しながら一瞬の好機を逃さぬ様に狙いを澄ます。

だがガンダムはまるでこちらの動きを察知したかの様に射線に味方を割り込ませる事で撃たせまいとしている様だつた。援護も出来ないままゼー・ズールが破損していく。

ライフル、ヒートナイフ、左腕、メインカメラ：一機を完全に沈黙させた後は胴体部を盾にして狙撃を避けていた。

そしてものの五分でもう一機のゼー・ズールも完全に沈黙した。ガンダムに目立つた損傷は一切ない。

完全な敗北だつた。

「化け物かよ…！」

そういうえば自分が正規軍だつた頃に賞金が掛けられた部隊があつた。

その隊長は時期に損傷を一切つけない事で有名だつたと思ひ出す。「△1か…！」